

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101950		
法人名	社会福祉法人 緑葉会		
事業所名	グループホームさくら「第1ユニット」		
所在地	長崎県西海市大瀬戸町瀬戸西濱郷1603-12		
自己評価作成日	令和6年2月14日	評価結果市町村受理日	令和6年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	-----------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 6年 3月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

残存機能を最大限に活かしながら、本人の力で出来る事を支援している。また、本人の趣味趣向に合わせながらの活動を促し楽しい生活が送れるように取り組んでいる。感染症が終息しない現状ではあるが、出来る限りの感染対策を講じながらの外出や家族との関りが作れるように取り組んでいる。今後は介護ソフトの導入も控えており、より利用者に寄り添える時間が増えていくと考える。時間が出来る事で新しい取り組みを加えながら、利用者の笑顔を引き出せるように取り組んでいく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、郊外の緑に囲まれた環境にある。リビングの前にはグラウンドが広がり、桜や藤の花々が彩りを添えており、利用者は、日頃から散歩し季節の移ろいを感じている。ホーム内は、と職員手作りの季節感を演出する飾り付けが利用者の心を和ませている。外出の機会を多く設け、車椅子の利用者も一緒にドライブに出掛けている。食事は職員の手作りで、季節毎に利用者も参加するおやつ作りにも工夫を凝らしている。毎年、家族向けに独自のアンケートを実施しており、家族の意見をサービスの質の向上に繋げる仕組みを整えている。また、職員に向けては、休日取得の奨励や資格取得に対するバックアップ体制も充実しており、働きやすい労働環境となっている。職員は、利用者の行動には否定せず、「ありがとう」と伝え、「いくつかになって自分らしい生活」ができるよう、理念の具現化に取り組んでいるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101950		
法人名	社会福祉法人 緑葉会		
事業所名	グループホームさくら「第2ユニット」		
所在地	長崎県西海市大瀬戸町瀬戸西濱郷1603-12		
自己評価作成日	令和6年2月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	-----------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 6年 3月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

残存機能を最大限に活かしながら、本人の力で出来る事を支援している。また、本人の趣味趣向に合わせながらの活動を促し楽しい生活が送れるように取り組んでいる。感染症が終息しない現状ではあるが、出来る限りの感染対策を講じながらの外出や家族との関りが作れるように取り組んでいる。今後は介護ソフトの導入も控えており、より利用者に寄り添える時間が増えていくと考える。時間が出来る事で新しい取り組みを加えながら、利用者の笑顔を引き出せるように取り組んでいく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分らしい生活を送るための個々の生活歴、趣味を活かせる機会を提供している。	開設以来20年、理念は職員間に根付いている。新入職員は、法人のオリエンテーションで学び、その後は管理者が1対1で指導している。職員は、利用者の思いや行動を否定せず、手伝うことを自分の仕事として、本人の生きがいに繋げるよう支援している。利用者の自由な様子や笑顔から理念の具現化が確認できる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍でもあり、案内は実施していない。感染状況によっては地域のお店に買い物へ行き交流を行っている。	コロナ禍のため夏祭りでの地域住民との交流は控えているものの、地域商店での利用者の買物を再開している。調理食材は、近隣の商店等から調達している。暮れには、高校生が餅つきに訪れ、利用者も楽しい時を過ごしている。管理者の知人の消防団員や近隣在住の職員から情報を得ながら、地域交流の再開を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて状況、活動報告を行い助言を頂いている。今年度は感染対策にて書面会議にて実施し地域の委員の方に情報発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出た提案・助言を受け、ホーム又は法人会議にて提案し次回会議に繋がるようにしている。	コロナ禍のため、2ヶ月ごとの書面会議を開催し、利用者状況や活動報告等の他、前年度の事業報告や今年度事業計画をあげており、透明性と事業所の明確な方針はわかりやすい。ただし、5回目までを纏めて行政や構成委員に送付し、意見を求めているものの返信がない。また、参加していない家族には議事録を送付していない。	書面会議の行政や委員への報告は、その都度送付し、タイムリーな助言等を得ることが待たれる。また、委員以外の家族にも議事録を送付することで、ホームの活動や会議への関心を高めるよう、期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者の異動届運営推進会議にて情報交換し協力を得ている。不明点や疑問点があった際には連絡を取り助言を受けている。メールでの情報交換も実施している。	書類等の手続きや提出は、管理者が市担当課を訪問する他、入居の際の家族との連絡調整を市担当者に相談している。6ヶ月毎に市担当者の訪問がある。その他、電話やメールで連絡を行う等、協力関係を築くよう取り組んでいる。行政主催の外部研修は感染予防対策として見合わせている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の研修会にて理解に努めている。また、勉強会を利用し職員の理解に務めるとともに研修を行っている。	身体拘束等適正化の指針を整備し、管理者他3名の職員で、年4回身体拘束適正化委員会を開催し、拘束は行っていない旨を法人に報告している。年2回の内部研修では、アンケート集計報告とスピーチロックの動画研修を行い、知識の向上を図っている。不適切な言葉遣いには、管理者がその場で注意喚起している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の研修会にて理解に努めている。また、委員会による虐待に関するアンケートを実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	委員会と一体的に活動を行っている。施設内では冊子を置き閲覧できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書類を用いて説明している。また入居される前に説明を行い、理解を得た上で当日に再度確認し不安や疑問が無いよう努めている。契約書は施設・家族1部ずつ保管している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的アンケートを行ったり、意見箱を設置することで意見や要望を把握し運営推進会議等で報告を行っている。家族の面会時や利用者との話を傾聴し記録することで改善点がある場合は修正している。	日頃から職員と利用者はよく会話している。年に1度、家族宛てに取り組んでほしいこと、改善してほしいことを尋ねる独自のアンケートを実施している。また、家族とは電話やメールを使って連絡を取っている。毎月発行の便りや、季刊の法人便りを送付するとともに、インスタグラムで発信し、利用者の様子を知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図り職員の意見・提案を把握し、法人上司に報告し業務改善に努めている。	日常の職員間の業務連絡にLINEを活用している。管理者は職員との面談を年1回実施し、意見や提案を聞き取っている。要望により勤務形態を変えた事例がある。法人内での異動のアンケートも実施している。職員からの要望で、令和6年度は、回想法の研修を実施する予定である他、冷蔵庫や机等備品の購入も反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月希望休を提出してもらい勤務のストレスが軽減できるよう勤務シフトを組んでいる。悩みや相談などがある場合は時間を作り個別に面接を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修やホームの勉強会に参加し知識を得る機会を作っている。法人外研修では案内を行い参加希望者を募り参加の機会を与えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	知見を有する方と運営推進会議時に情報交換を行い実践につなげている。また、管理者が他の施設の運営推進委員であり他施設との交流を通し質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント(課題分析表)を活用して本人の状態や状況に応じてコミュニケーションを図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の面会時に要望・不安を傾聴しその都度、説明を行い安心できる関係の構築に努めている。定期的にアンケートを実施し意見の吸い上げを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の情報・本人の現在の状況を細かく記録して、必要とするサービスの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の話を傾聴し、ともにゆったりと過ごす時間を作り、本人の理解に努めている。また会話の中でできること出来ないことを把握し、出来る事の支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「さくらだより」「収支報告書」にて活動、生活状況を掲載し伝えている。面会時には状況説明も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同地域の方が多く、昔からの知り合いであることも多い。生活の中で交流が持てるように支援している。また、知人との手紙のやり取りの支援を行っている。	裁縫が得意な利用者には、繕い物をしてもらっており、入居前の生活を継続できるよう支援している。仏壇を居室に置いている利用者もいる。入居時に得た利用者の生活歴は、書面で保管し、日々の介護で得た情報は、24時間シートや送りノットに記載している。ただし、利用者毎にまとめたものではない。	職員全員が、利用者の生活歴や馴染みの関係を把握できるよう、記録の方法に工夫が待たれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入りコミュニケーションを図ったり、一緒に食事・洗濯等の手伝いを楽しみながらできるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は病院での生活が多く、そのまま亡くられる事が多い。亡くなられた後も自営業をされている家族へ行事の際の注文を行うなどし地域、家族との関係性に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の出来ることはしていただき、出来ないことは一緒に行い支援している。また出来ないことに対しては小さなことでも一緒できるよう支援している。	意向表出が困難な場合には、表情やしぐさから推察している。難聴の利用者には、耳元で話しかけている。入浴時やお茶の時間はゆっくり利用者の話を聞くことができる時間である。介護記録は、24時間シートを活用しており、利用者が発する言葉をそのまま記録している。家族と電話で話をしたい等の要望に応じている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前や入所時に関係者より情報を頂き、入所後は本人との会話との中で暮らしぶりを引き出し情報収集を行いケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状況、状態に合わせ支援している。また、異変を感じたら早急に看護師、医師と連携を取り、多方面から利用者の状態を観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	経過観察簿や24hシートの記録を活用し職員間の情報を共有し、適宜の見直しを行い、ケアプランに反映している。	利用者の会話、家族との電話や便りで意見を聞き、長期1年、短期6ヶ月の介護計画を作成し、本人、家族に了承を得て実践している。担当職員が毎月、経過記録簿やチェック表、送りノートをもとにモニタリングし、全職員がカンファレンスで課題や改善策を話し合い、本人のQOL向上に繋がるよう、取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録簿・チェック表・送りノート、会社内のグループラインを活用し職員間で情報共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の要望、本人の状態に合わせた職員間での意見交換・会議を行い状況にあった支援につなげている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々の協力を得て交流することができ、一人一人が楽しく過ごせるような支援を目標としているが、実現には至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度の定期検診、体調不良時の受診共に出来ている。また、本人希望にて受診したい場合など予定を組むなどし対応している。受診後は報告・記録掲載している。	歯科は法人協力医の往診で、内科、他科とも入居前の複数のかかりつけ医を職員が受診支援している。心療内科、口腔ケア等の希望にも沿っている。受診結果は、家族へ電話や便りで報告し、送りやケース記録で、職員の共有を図っている。夜間の看護師の24時間オンコール体制は、職員間に浸透している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	オンコール体制を整えているため、急変時は常時連絡を取れる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が付き添い情報を提供している。また、病院関係者とも情報交換を行っている。認知面が進行しないよう早期の退院へつなげるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態変化があった際、ドクターの所見等をふまえ今後の可能性を家族へ説明し協議を行っている。	契約時、重度化指針をもとに、ホームでは体制が整っていないため、看取り支援を行わない旨を家族に説明し、同意を得ている。利用者の体調変化に伴い、主治医や家族、管理者が協議を重ね、主治医と連携しながら、必要な医療を行いつつ、ホームでの生活が穏やかに継続できるよう、最大限の支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	119番通報やAEDの使用方法などの手順を研修で学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	通報訓練・緊急時の連絡体制の訓練を実施している、毎日自主点検を実施している。	年2回、隣接施設合同の火災訓練は、昼間、夜間想定で消防署や設備会社立会いで実施している。簡易担架誘導や水消火器訓練等を行っている。昨年度は、台風接近に伴い、隣接する施設へ避難している。また台風にも備え雨戸を新設している。備蓄は法人とホームで整備し、BCPは法人と合同で作成し概ね完成している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに気をつけ声掛けを行っている。入浴や排泄時にはプライバシーを配慮した支援を行っている。	利用者の呼び方は苗字にさん付けとし、言葉遣いが、慣れ慣れしくならないよう職員に指導している。利用者に「申し訳ない」と言わせない支援を目指している。インスタグラム等に使用する写真掲載には、家族から書面で同意を得ている。職員は、守秘義務の誓約書を提出し、介護記録は、鍵付きのキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に依頼する際は必ず本人に声掛けを行い本人の意志を確認してから実施し職員の都合でおしつけないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者がしたいことを優先し本人のペースで行動ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容室の支援を実施している。また本人の意志を確認しながら洋服選びをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の材料や菜園で収穫した食材を利用し、一緒に準備し楽しく食事をしている。菜園での収穫も行い育てる楽しみへ繋げている。	調理専門の職員1名を含め、職員が順番で作っている。利用者も野菜の下ごしらえやお盆拭き等を手伝っている。隣接する障害者施設と合同で野菜を育て、収穫した食材を献立に取り入れることもある。行事食や手作りのおやつにも趣向を凝らし、誕生日には、ケーキやちらし寿司で祝い、食事が楽しいものとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各職員が献立を作成し隣接施設の栄養士に相談し助言をいただき次の献立に活かしている。排便・水分提供時間を記録し一定量の水分確保に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に実施。夜間義歯の洗浄を実施。また定期的に協力医療機関による口腔ケアを実施している。月2回実施。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録用紙に排泄記録を行い把握に努め必要のないオムツ等オムツ外しに繋がるよう支援している。	日中は、トイレでの排泄を基本としている。夜のみオムツやポータブルトイレを使用する利用者もいる。ポータブルトイレは、その都度洗浄している。失敗した場合は、羞恥心に配慮して「汗をかいていますよ」と声を掛け支援している。ユニット会議でオムツを外す勉強会や検討も行っており、実際に改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動・水分量の確保に努め排泄を促進している。排便がない日が続くと下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3日に1度は入浴ができています。しかし本人の体調・希望等を優先し声掛けを行い入浴の支援を行っている。	風呂は毎日沸かし、週に2、3回入浴している。ホットタオル機を備え、入浴日以外は毎日清拭している。また、パジャマは毎日洗濯し、清潔保持に努めている。毎日、さまざまな入浴剤を入れて、リラククスできるよう支援しており、利用者は、歌を歌ったり、職員と1対1でゆっくり話ができる時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は本人の体調を優先しながらできるだけ日中は活動し生活が送れるように支援し夜間の安眠に繋げられるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当者が管理・指導のもと服薬支援を行っている。誤薬防止の為2人体制で確認、服薬時は名前・時間の確認を声に出し確認して支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人に出来ることは行ってもらいながら、楽しくできるよう努めている。毎日行うことで役割を感じてもらえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設外の散歩や外でのお茶会等を行い施設外に出るようにしている。また、少人数でのドライブ等を実施している。	日常は、ホーム前のグラウンド廻りを散歩している他、新型コロナの感染状況を見ながら、近隣のスーパーや衣料品店に買い物に出掛けている。桜の季節には、藤棚の下で皆で弁当を食べて楽しいひと時を過ごしている。近郊の動物園や名所に車椅子の利用者も一緒に外出する機会を多く設けており、利用者の笑顔に繋がっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設にて管理している。購入品があれば本人確認のうえ支払いを支援を行っている。毎月家族へは収支報告を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人からの手紙・荷物の受け取り後は本人に直接電話をしてもらっている。家族にも報告している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節に合わせた飾り付けを行っている。また、リビングから見える場所には季節の花々を植え成長を鑑賞できるようにしている。	リビングからグラウンドの桜など季節の花々が鑑賞できる。廊下の壁に飾った行事や外出時の写真は、歩行訓練の利用者や職員の楽しみとなっている。キッチンのはじめは家庭の温かみがある。利用者は洗濯物を畳んだり、テレビを見たり自由に過ごしている。毎朝の清掃や空調管理で清潔な環境となるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファのほかに椅子を設置し気の合う方々で過ごせるよう状況に応じて椅子の場所を変えたりし、楽しく過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していた家具・テレビ・仏壇・家族写真等自由に置くことができるよう家族に説明している。できるだけ自宅で生活していた環境に近づけるよう努めている。	居室には、鏡台や筆筒、衣装ケース等、馴染みの物を使い勝手がいいように配置している。塗り絵作品や家族写真を飾り、ぬいぐるみや化粧品等の愛用品がある。布団は、自宅からの持込みで、週1回のシーツ交換を行っている。感染症に配慮し、換気や消毒を行い、清潔な居室でゆっくりと過ごすことができるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂の場所などわかりやすいように大きな字で表示している。見守りが出来るように職員配置し安全にできるよう支援している。		